

研究区分	教員特別研究推進（国際共同研究・国際交流の促進）
------	--------------------------

研 究 テーマ	高齢期における歯科医療に着目した歯科衛生士の国際交流の推進に関わる方法の検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	歯科衛生学科・講師	氏名	松原 ちあき
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	歯科衛生学科・講師	氏名	松原 ちあき

講演題目
歯科衛生士をはじめとする医療従事者の国際交流の推進に関わる方法の検討
研究の目的、成果及び今後の展望 目的：文部科学省では、学術研究や文化・国際貢献での活躍といった観点から、高等教育での国際交流を促している。歯科医療もグローバル化が進む中で、「海外の文化を学ぶこと」、「革新的な技術・知識などの情報の獲得」、「日本での歯科保健に関する情報発信」を進めるため、積極的に国際交流を行うことは重要であると考えられる。しかし、歯科衛生士としての国際交流の機会は、大学等の養成機関でも推進が行われているが、その機会は未だ少ないのが現状である。日本の歯科衛生士養成の4年制大学（7大学）の2年生以上の学生（466名）と教員（45名）に質問紙を用いて、国際交流への関心等を調査した研究では、海外留学を希望する学生は48.1%と約半数であり、留学生との国際交流を希望する学生は76.0%と国際交流への関心が高い、一方で、実際の海外留学の経験は4.3%であり、海外研修を希望しない学生の約半数以上が、「語学力」「費用」に関する理由をあげており、国際交流への関心は高いが、導入率は低いことが明らかとなっている。そこで本研究および事業では、歯科衛生士の国際交流活動の促進方法を検討することを目的として、多面的な国際交流事業を実施し、国際交流の意識関心についての実態調査を行った。 方法：国際交流事業として、海外から歯科医療従事者および学生を招聘し、講演および意見交換を実施した。これにより、国内外の歯科医療の実態把握を図った。また、事業参加者を対象に、国際交流に関する意識や関心についてアンケート調査を実施した。（静岡県立大学倫理審査委員会承認：2025-35） 結果と今後の展望：令和7年12月にベルギー王国の歯科衛生士および歯科衛生学科学生を招聘し、講演会を開催した。本学学生および教職員を対象に広く周知を行い、計86名の参加を得た。参加者からは、「ベルギーの歯科教育カリキュラムや医療制度について理解が深まり興味深かった」、「他国の歯科医療制度との比較を通じて視野が広がった」といった肯定的な意見が多く得られた。 参加者を対象としたアンケート調査（分析対象71名）では、これまで国際交流事業に参加経験のない者が94.8%と大多数を占めた一方で、今後の参加意欲を示した者は41.1%であった。 これらの結果から、国際交流に対する関心は一定程度存在するものの、実際の参加経験や継続的な関与には課題があることが示唆された。今後は、語学力や費用といった参加障壁を低減するため、オンライン交流や短期プログラムの導入、学内外の連携による継続的な交流機会の創出が重要である。また、国際交流を単発のイベントにとどめず、教育課程の中に体系的に位置付けることで、学習効果の向上と参加意欲の醸成を図る必要がある。さらに、こうした国際交流経験が学生のキャリア形成や国際的視野の獲得にどのように寄与するかについて、長期的な視点からの検証を進めていきたい。